

01 三富士三鷹

縁起のよい夢を順に並べた、縁起のよい言葉。その由来



は、様々な説があるも

の、徳川家康公の好物を並べたという説も。景色では富士山、趣味は鷹狩り、食べ物では茄子。天下をとった家康公にあやかり、縁起がよいことになったと言われている。

02 竹千代

徳川家康公の子供時代の名前。

家康公は竹千代と呼ばれていた時代も含め、8歳ごろから19歳頃まで駿府(今の静岡市)で人質生活を送っていた。



静岡駅北口駅前広場
竹千代君像

03 鷹狩り



「鷹狩り」とは、鷹などの鳥を使った狩猟のこと。家康公は鷹狩りを生涯の趣味にしていた。里や野山を馬で走りまわる鷹狩りは、足腰が鍛えられることはもちろん、地形や田畑、人々の様子などを把握できる、まさに「二石二鳥の趣味」。静岡市葵区の「鷹匠」の地名など、家康公と鷹狩りにまつわるエピソードが各地に残っている。

04 初勝利の姿

久能山東照宮には、家康公が着用した「金陀美具足」が残されている。松平元康と名乗っていた、19歳頃の家康公が桶狭間合戦の前哨戦で勝利した際に着用した具足。美しい金箔押しに華やかな具足をまとった若き家康公のりりしい姿が目につく。



金陀美具足

05 名付け名人

三方ヶ原合戦地の石碑



三方ヶ原の合戦で敗走した家康公。「空腹だった家康公にお粥を出した農家に、のちに御礼として『小粥』という名字を与えた」「桶のほら穴で隠れたところ、馬の白い尾が見えていたので、村人がそれを教え、武田軍の追手を逃れることができた。その後、恩賞として『白尾』の名を与えた」など、ユニークな名付けの逸話が多い。

06 学問好き

駿府城に隠居した家康は、時々、各宗派の僧侶を集め、宗論をたたかわせて聴くのを好んだ。また、駿府城内の御文庫には三万冊の図書があったという。



駿府城 翼櫓

07 部下づかい達人

家康公は「家臣こそ我が宝」をモットーの一つにしていたという。浜松城時代にも、家臣の諫言を聞き入れたり、若い家臣の話も聞くように重臣に言い聞かせたりしたと伝えられている。



浜松城

08 お茶

家康公は、井川大日峠「お茶蔵」をつくらせ、茶壺を数多く納めて、御三家・諸大名に茶を贈るとともに自らも愛飲したという。また、茶作りにも特例を設けて奨励したため駿府及び周辺の茶が発展した。

09 スポーツマン

65〜75歳の大大御所と呼ばれた時代も、日常の心身鍛錬のため鷹狩りに出かけたという。また、晩年の家康公が鷹狩りの最中、静岡市西奈を流れる長尾川に水浴し、古泳を従者に披露した逸話が残っている。

「徳川家康」と静岡との関わりを探る

キーワードで探る、家康公とふじのくに

10 外交手腕

戦国の世から太平の世へ日本を変えた家康公。その手腕は外交にも発揮された。朝鮮との国交回復に努めたほか、英国人のウィリアム・アダムス(三浦按針)を外交顧問として起用し、諸国の情報を把握した。伊東の船大工を使い、日本初の洋式帆船を建造した。



按針メモリアルパーク